

次期学習指導要領 1枚まとめ｜小学校

特別活動 小学校

子供が学級・学校をよりよく創る「社会創造」の活動へ

10秒でいうと

クラブ活動は学年（主に4年以上）の縛りや実施時期を柔軟に。児童会は学校運営に意見を

特別活動は、子供が学級や学校という身近な社会をよりよく創る活動として見直す方向です。三つの視点のうち「社会参画」は「社会創造」に整理し直す案です。学級活動は、人間関係や安心して話せる雰囲気をつくる「学級経営の要」と明確にします。クラブ活動は「好き」を追う場として柔軟にする案です。評価は「学びに向かう力」の個人内評価にする方向です。

1 学級活動は「学級経営の要」

学び方が多様になるほど、学級経営が欠かせなくなるとされています。そこで学級活動を、よい人間関係や心理的安全性（安心して発言できる状態）をつくる「学級経営の要」と明確にする方向です。学校の教育活動全体を下から支える役割です。 P349

授業では たとえば朝の会や学級会で、困っていることを安心して出し合える約束を、子供と一緒に決めることが考えられます。

2 クラブ活動を「好き」を追う場に

クラブ活動の意義として、「好き（興味・関心）」を追って個性を伸ばすことを重視する方向です。異学年で行う原則は保ちつつ、学年の縛り（主に4年生以上）を柔軟にできるようにします。特定の期間に集中して行うことや、地域の活動とつなげることも明確にする案です。 P355 P356

授業では たとえば3年生も体験として参加できる期間を設けたり、クラブに関わる地域の教室を掲示して紹介したりすることが考えられます。

3 児童会が学校運営に意見を出す

児童会活動は、校則など学校のルールづくりをはじめ、学校運営に子供が関わる仕組みだと明示する方向です。学校のきまりなどについて子供が提案し、先生との話し合いを通して関わる、といった「意見表明」の記載を設ける案です。 P355

授業では たとえば児童会が全校アンケートで休み時間のきまりの困りごとを集め、改善案を先生たちに提案する活動が考えられます。

4 評価は「学びに向かう力」の個人内評価に

資質・能力の3つの柱に分けた、目標に準拠した評価は行わない方向です。話し合いなどの中で表れる「学びに向かう力」を、一人一人の伸びとして見る個人内評価にする案です。過度な評価材料集めを抑え、子供のよさや成長を自然に見取ることがねらいです。 P361

授業では たとえば学級会では、よい姿をその場で言葉にして認めます。記録集めより、子供自身の振り返りを大切にすることが考えられます。

ほかにも変わること（小学校）

- 学級活動（ホームルーム活動）の項目名と内容を整理し直す P353 P354
- 学級活動を「学級経営の要」、生徒指導・特別支援の「要」と明確化 P349 P350 P95
- 評価を「学びに向かう力」の個人内評価とし、過度な評価材料集めを抑える案 P361 P346
- 児童会・生徒会活動に「学校運営への意見表明」を書き込む P355 P363 P364
- 学校行事は「子供たちが創造する活動」に。文化的行事は「文化・学習発表的行事（仮称）」へ P356 P357
- キャリア教育の役割分担と「キャリア・パスポート」の見直し P358 P359 P95
- 「合意形成」「意思決定」の意味と進め方を示す P345 P359 P360
- クラブ活動を「好き」の追求の場として柔軟にする P355 P356

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。